

(火)

主の導きによる旅路

出エジプト記四〇章

イスラエルの人々はいつも、雲が幕屋の上から離れて昇ると、旅立ち、雲が昇らないと、昇る日まで旅立たなかった。(36、37)

幕屋が完成した後、この幕屋を中心にしてこれからどのように旅路を進めていくのが記されています。困難が待ち受ける彼らの旅路を導いたのは、幕屋の上から昇る雲でした。雲は神の臨在を表すものであり、雲が昇るということは前進の合図であり、昇らないというのは止まれを意味していました。イスラエルの民はこの雲の合図に従い、雲が昇るときは前進し、雲が昇らないときは何日でもそこに留まり続けました。このように、神の導きというものには二種類あります。前進を勧める積極的な導きと、私たちにストップをかける消極的な導きです。この神の導きを的確に捉えることが私たちの信仰生活において求められています。独りよがりの信仰となることなく、反対に単なる常識的な判断に終始するのではなく、神の導きを常に真剣に追い求めていく私たちでありたいものです。